

2019年度

事業計画書

社会福祉法人 敬和会

高齢者生活支援施設 けいわ荘
特別養護老人ホーム ユニテ けいわ
居宅介護支援センター けいわ荘
厚木市荻野地域包括支援センター
え ま 一 ぶ る
ケアプランセンター けいわ
ケアハウス えがりて
け い わ 保 育 園
け い わ 星 の 子 保 育 園

目 次

〔施 設〕

はじめに	1
I 法人の基本理念	1
II 事業方針（重点取り組み事項）	2
(I) 利用者サービスの充実	2
(II) 地域福祉サービスへの積極的な取り組み	2
(III) 職員の専門性の向上とチーム力（団結力）の強化	3
(IV) 環境の変化に適応する経営	4
III 部門別事業計画	5
1. 生活支援課	5
1) 生活相談員	5
2) ケア第1（さざんか・コスモス）	7
3) ケア第2（陽だまり）	9
4) ケア第3（ユニテさくら・ひまわり）	11
5) 施設ケアマネージャー	13
6) 医務	15
7) 栄養	17
2. 地域支援課	19
1) 居宅介護支援	19
2) 短期入所生活介護	21
3) 通所介護	23
4) 訪問介護（含、障害福祉サービス）	25
3. 萩野地域包括支援センター	27
4. ケアプランセンターけいわ	29
5. えまーぶる	31
1) 通所介護事業所えまーぶる	31
2) 居宅介護支援事業所えまーぶる	33
6. ケアハウスえがりて	35
7. 管財課	37
8. 総務課	39
『メモ』	42
平成31（2019）年度年間行事予定表（案）	43
〔保育園〕	
けいわ保育園	44
基本理念	44
重点取組事項	44
具体的取組内容及び達成目標	44
行事計画	45
けいわ星の子保育園	47
基本理念	47
重点取組事項	47
具体的取組内容及び達成目標	47
行事計画	48

はじめに

今年10月に予定されている消費税率10%引き上げにともない、2019年度介護報酬改定は、基本報酬が多少の増額になると予想されておりますが、色々な角度から見当してみると、結局はマイナスになるのではとも思われ、きめ細かな節約がさらに必要になってくるのではと予想されます。

また、人財不足につきましては、外国人材受入れという視点もありますが、現段階ではまだまだ見通しも甘く、これからもますます慢性化していくことになると思いますので、人財の育成と確保に力を注ぎながら先を見据えた知恵と工夫で業務を補っていかなければと痛感をしております。

社会福祉法人敬和会は、法人の理念に基づき行動し、事業方針に示された課題を実現することを大切にしながら、職員のワークライフバランスが高められるように、そして、職員が長く在籍してもらえるような職場環境の整備に取り組んでいきたいと思います。

社会福祉事業を支えているのは、「ヒト」ということを忘れず、仲間を大切に成長を支え、定着率をはかり、風通しのよい職場を目指し、教育力・指導力の強化をはかりながら、地域における安心の拠点として信頼されますよう活動してまいります。

I 法人の基本理念

1. 利用者に敬愛の情を持って接し、「安らかなる老人の生き甲斐を守り育む」精神を重んじ、明るい施設づくりと更なる安心できる地域福祉の拠点づくりに努めます。
2. 利用者一人ひとりをあるがままに受け入れる中で、人間的な生活が楽しくできるような環境づくりに努めます。
3. 創造性と柔軟な思考で利用者に信頼される介護に努めます。

この3点を基本理念として、今日的な地域福祉の拠点となる施設づくりに努めます。

II 事業方針（重点取り組み事項）

今年度の重点取り組み事項として、以下の4点をあげました。

- (I) 利用者サービスの充実
- (II) 地域福祉サービスへの積極的な取り組み
- (III) 職員の専門性の向上とチーム力（団結力）の強化
- (IV) 環境の変化に適応する経営

(I) 利用者サービスの充実

1.利用者の尊重

- ・安心感への尊重
- ・人格の尊重
- ・自己決定の尊重

2.質の高い自立支援

一人ひとりの利用者が、その有する能力に応じて自らが選択した場所で自立した日常生活を営むことができるよう質の高い自立支援をします。

3.家族との連携

利用者と家族との信頼関係構築は、施設運営にとって非常に重要な要素である。家族に利用者ケアの一端を担う「協力者・パートナー」となっていただき、リスクに関する情報はすべて開示・共有し、ケア方針の意思決定に参画していただき、一人ひとりの利用者やご家族が自ら希望する生活を安心して送れるよう支援します。

(II) 地域福祉サービスへの積極的な取り組み

1.地域共生社会を目指したサービス

- ・地域課題の解決力の強化。
- ・地域丸ごとの繋がりの強化。
- ・地域を基盤とする包括的支援の強化。
- ・専門人財の機能強化・最大活用。
- ・地域における災害等の緊急時の支え合い体制の構築。

2.社会貢献への実践

自ら持つ人財や施設・設備などの資源を活用し、高齢者・障がい者・子どもなど地域住民の頼りとなる地域の拠点の一つとなり、誰もが住み慣れた地域でできる限り健康で安心して生活できるよう、また、平時に止まらず、災害等の緊急時においても地域の拠点となるよう、社会福祉法人敬和会が、地域住民に対して行う地域貢献活動の普及促進を図ってまいります。

3.地域への便宜供与

「地域福祉社会に奉仕する」という精神で、与えていただいた社会資源の活用と更なる質の向上を目指し、介護、予防、支援、相談等、サービスの提供に努めてまいります。

(Ⅲ) 職員の専門性の向上とチーム力（団結力）の強化

1.研修の充実

人財育成・研修教育を充実させ、経営の健全化及び運営の適正化を図ることによって利用者へのサービス提供体制が確立されるとともに、職員が継続して勤務できる環境の整備が急務と考えます。

2.人財定着のための取り組みとチーム力の育成

以下に掲げた各項目を具現化して、人財定着のための取り組みと働きやすい環境整備を図っていきます。

- ・経営理念の共有促進
- ・リーダー人材のレベルアップ
- ・良好なコミュニケーションづくり
- ・定着率向上のための取り組み
 - (1)メンタルマネジメント
 - ・モチベーションマネジメント
 - ・ストレスマネジメント
 - (2)ワークスタイルの多様化に対応
 - (3)定期的面談による課題解決
 - ・新卒・中途採用に力を注ぐと同時に離職防止対策を強化し、職員の様子が気になれば何でも相談できる職場環境づくりと法人事務局もバックアップしていく体制作りを構築していきます。
 - ・職員の能力発揮・成長機会の提供
 - ・労務環境の適正化と組織の安定化
 - ・大学・専門学校・高等学校等への広報活動と信頼関係づくり
 - ・効果的な広報戦略
 - ・施設内外での就職説明会
 - ・転職サイトの効果的活用
 - ・広報戦略の研究
 - ・ホームページを活用した情報開示の充実
- 3.資格取得の推進と強化
 - ・資格所得者数を対外的にアピール
 - ・職員の資格取得活動により法人全体の技術レベルの底上げ
 - ・資格取得への具体的支援

(IV) 環境の変化に適応する経営

1.利用者定数を満たす

- ・特養の空床期間の短縮
- ・短期入所の満床（定員10名）の維持
- ・デイサービス・訪問介護の利用者増を図るため、多職種間の連携強化

2.業務の見直しと経費節減

介護職員の業務軽減を図り、情報の共有化を進めるため、ICT化の推進を強化し、また、施設の運営経費において人件費と並んで大きな割合を示す光熱水費の低減化を職員の自覚のもとに図ってまいります。また、書類の作成には極力裏紙の使用を促してまいります。さらに電子化によるペーパーレス化を推進してまいります。

3.中間管理職の育成

中間管理職（ミドル・マネジメント）の役割と育成は、法人成長の重要な課題の一つであります。

マネジメントを行う3つの階層

- ・トップ・マネジメント：経営責任を負う。
- ・ミドル・マネジメント：目標を達成するために戦略を推進。
- ・ロワー・マネジメント：現場の職員と一緒にになって目標達成を目指す。

中間管理職は、経営陣の意思や計画を一般職員に伝達する役割を担っています。また、業務を改善して、目標を達成するための進捗管理を行うのも大切な業務の一つである。そして、中間管理職の仕事で欠かせないのが「部下の育成」です。

いくら有能な人材でも、教育がしっかり行わなければ成長を阻害し、場合によってはモチベーションが下がってしまいます。正当で公正な評価を心がけ、仕事量の適正化や目標設定など部下の育成には、多様な心配りが重要と考えます。

中間管理職の育成では、

- ・マネジメント教育
- ・適した教育を行う環境の構築
- ・教育の仕組みづくり
- ・コーチング教育の取り組み

III 部門別計画

1. 生活支援課

(基本目標)

- 1) 法人理念のもと、利用者及びご家族が終の棲家として安心して過ごす事が出来る環境やケアの提供を実践します。
- 2) 施設全体での業務の見直し及び職員の育成、チームワークに重点を置き、信頼できる職場作りの構築を行います。
- 3) 利用者及び職員の体調管理に留意します。
- 4) 地域から選ばれる施設作りを目指します。

1) 生活相談員

重点目標	具体的目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画								
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(1) 利用者サポートの充実	① 利用者の尊重	(1) 利用者や家族の意向確認 (2) 極人情報保護	毎年	(1) 納得感等に意向を確認し、多職種間での情報共有を行う。 (2) 個人情報やプライバシー保護に十分注意する。								
	② 質の高い自立支援	(1) 利用ひとり一人の状態把握 (2) ICT化の定着	毎年	(1) 入所申込書や事前面接時に状態把握し、入所後のケアに繋げる。 (2) 多職種間での情報共有。								
	③ 家族との連携	(1) 日々の状況報告 (2) 行事への参加 (3) 終末期の意向の確認	毎年	(1) 日々の状況（体調、事故等）を密に連絡を取り、家族と信頼関係の構築を図る。 (2) 慢性的に行事（納涼祭・散歩会・遠足等）の参加を促し、利用者、職員との交流を図る。 (3) 後期の意向を事前に確認し、後の様様としての措置を策定する。								
	④ 地域共生社会を目指したサービスの充実	(1) 困難事例の受け入れ (2) 地域住民に受けられる施設	毎年	(1) 地域包括やアマネビ連携を図る。成年後見制度の活用。 (2) 児童や相談等は随時受け入れ、親切丁寧に対応する。								
	⑤ 社会貢献への実績	(1) 社会福祉士・介護福祉士実習生受け入れ (2) 教員実習の受け入れ (3) 中学校体験受け入れ (4) 高校生体験受け入れ	毎年	(1)~(4) 緊密的に受け入れを行い、就職に繋げる。又、精神に興味を持つて頂けるように対応する。								
	⑥ 地域への医宣共与	(1) 地域住民向けの入所相談	毎年	(1) 地域のイベント等に参加し、施設や入所についての相談を受ける機会を設ける。								

社会福祉法人敬和会
2019年度事業計画書

(Ⅲ) 研修の充実		(1) 内部、外部研修への参加	毎年	(1) 様々な研修へ参加し専門性を高め、スタッフ間で情報共有していく。
①	研修の充実	(1) 業務の見直し、改善 (2) チーム力の向上	毎年	(1) 定期的に面談等を行い、業務内容等を改善していく。 (2) 技能、運営、報告を徹底し、チーム力を高める。
②	人材定着のための取り組みビーム 力の育成	(1) 社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を目指す。	毎年	(1) 資格取得に向けた研修会参加。
③	資格取得の推進と強化	(1) 施設稼働率98% (2) 新規利用者の確保	毎年	(1) 空床利用の実施。(短期入所) ケースワーカーや、ケアマネ等との連携。 (2) ケアマネ、包括等との情報交換を図る。
(Ⅳ) 営業の効率化と経費削減		(1) 営業の効率化 (2) ベーバーレス化による経費削減	毎年	(1)-(2) ICT化の実践。
①	利用者点数を増やす			
②	業務の見直しと経費削減			

2) ケア第1(さざんか・コスマス)

重点目標	具体的目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(一) 利用者サービスの充実	① 利用者の尊重 ② 要の無い自立支援	(1) 利用者、家族の意見を大事にする (1) 廉價機能を活かしたケアの提供	毎年	(1) 利用者、家族の意見に沿った対応の実施。 (1) ケアプランに沿った自立支援の実施。											
	③ 家族との連携	(1) 日々の状況を家族に伝える (2) 家族との対話の機会を設ける	毎年	(1) ご家族面会時、利用者の状況をお伝えし、随時家族の意向を確認していく。 (2) 家族との対話によるコミュニケーションの強化。											
(二) 地域共生社会を目指したサービス	① 地域共生社会を目指したサービス ② 社会貢献への実践	(1) 外出や地域行事等へ参加 (1) 体験学習や実習受け入れ	毎年	(1) 地域の方々との交流の機会の充実に努めます。 (1) 横浜的に受け入れ対応していく。											
	③ 地域への貢献	(1) 町野小学校児童との交流(運動会参加) (2) 町野小学校からの握手	毎月	(1) 町野小学校児童との交流(運動会参加) (2) 月齢との交換											
	④ 研修の研鑽	(1) 施設内外の研修参加 (2) 所属職員のスキルアップ	11月	(1) 施設内研修への参加を促す。 (1) 外部研修への参加を惜やす。 (2) 研修内容の共有と研鑽。											
(三) 敬和福祉サービス向上と子力(園組)の強化	① 研修の研鑽 ② 人材育成のための取り組みチーム力の育成	(1) チームワークの向上 (2) 業務改善	毎年	(1) 会議を定期的に行い、意見を言いあえる場を設ける。 (2) 暫時業務の戻し、改善をしていく。											

社会福祉法人敬和会
2019年事業計画書

③ 資格取得の推進と強化	(1) スキルアップのための資格取得の推進 (2) 介護福祉士の増員 (3) 営業営引資格者の増員		(1) 標榜登録の実施。 (2) 介護福祉士の資質改善に対し、積極的に妥協を呼び掛けする。 (3) 固定的資格保持者及び未資格者に、外部講習会等を推進していく。
		毎年	
			(1)・(2) 生活相談員との連携により、空床期間の短縮・短期入所滞床を維持し、稼働率100%を目指す。
(4) 病院の運営に係る取り組み	① 利用者定数を漸減		
	(1) 空床期間の短縮 (2) 短期入所滞床維持	毎年	
			(1) ICTの導入によりペーパーレス化を図る。 (2) 移乗リフト、移乗床ボード・シートを活用し介護負担の軽減を図る。 (3) 消耗品の使用状況の把握、節電の実現を行なう経費削減に取り組む。
(5) 病院の運営に係る取り組み	② 病院の見直しと経費削減		
	(1) ペーパーレス化による経費削減 (2) 介護負担の軽減 (3) 経費削減	毎年	
			(1) 部下を育成し、良さを認める風潮の良い職場環境づくりを目指す。 (2) 業務内容及び人間関係での懸念に、一人で抱え込まないように、面談を重ね、信頼関係を構築する。
(6) 病院の運営に係る取り組み	③ 中間管理職の育成		
	(1) 対話の重視 (2) 定期的面談	毎年	
			(1) 業務内容及び人間関係での懸念に、一人で抱え込まないように、面談を重ね、信頼関係を構築する。

3) ケア第2（陽だまり）

重点目標	具体的目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画								
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(一) 利用者サポートの充実	① 利用者の尊重	(1) 利用者個々のそぞらしい生活を継続実現 (2) 入浴を否定せず日々の生活の不安を取り除く	毎年	(1) ニーズに合わせた計画の立案と実施していく。 (2) 各ご利用者の声を拾い、寄り添うケアを実施していく。								
		(1) チームケアの実現 (2) 残像機能を活用したケアの提供	毎年	(1) 記録電子化の進捗と定着。電子化することで情報共消、配信管理を迅速かつ的確に行い、ご利用者との開かれる時間を多くする。 (2) 利用者の残像機能を分析して機能維持につながるケアにあたる。								
	② 離の高い自立支援	(1) 開会式にコミュニケーションを多く図る (2) 行事への参加を積極的に呼びかける (3) ご家族への協力要請	毎年	(1) ご家族の面会時、担当ワーカーが不在でも近況報告が出来るチームづくりを心がけ、ご家族の不安を緩和する措置を取る。 (2) 行事やイベント毎にフロアの掲示板でお知らせします。 (3) 外出・外泊、遅泊等ご家族への協力を要請をがこなしていく。								
		(1) 着用や地図行事等へ参加	毎年	(1) 地域の方々との交流の場の機会の充実に努めます。								
		(1) 地域共生社会を目指したサービス	毎年	(1) 地域活動・行事へ参加、協力体制をとり地域社会へ貢献出来る機会をめぐめます。								
	③ 社会貢献への実践	(1) 被災児童や児童との交流 (2) 地域への貢献	毎年	(1) 地域活動・行事への参加、協力								
		(1) 被災児童や児童との交流 (運動会参加) (2) 被災小学校からの慰問	9月 11月	(1) 運動会参加 (2) 呉原との交際								
		(1) 施設内外の研修への参加、充実 (2) 研修の研究	毎年	(1) 有志巣な外部研修、施設内研修への積極的な参加を促していく。 (2) 部署内の定期的な振り返りの機会を設け専門職としてのスキル向上 - チームワークの強化に繋げていく。(2ヶ月に1度)								
(二) 敬和体験からいくぐくの実験場 体験の組み立て力(回路力)の強化	① 研修の研究	(1) 理解し合える回路や目標とする完成構造との 意見交換会	毎年	(1) 意見交換の場を2ヶ月に1度設ける。 (2) 業務の見直し、改善を行う。								
		(2) 人材定着のための取り組みとチーム 力の育成	毎年	(2) 周辺の業務環境を整える シヨン維持に繋げていく。								

社会福祉法人敬和会
2018年度事業計画書

③ 資格取得の推進と強化	(1) 資格未取得の職員への要請推進 (2) スキルアップのための資格取扱いの推進	通年	(1)・(2) 初任者研修の受講や介護職として必要と認められる資格等の修習・実力を随時充てていく。
	(1) 空床期間の短縮 (2) 短期入所施設連携	通年	(1)・(2) 生活相談員との連携により、空床期間の短縮・短期入所済床を維持し、待機率100%を目指す。
(IV) 利用者定額を精打す	(1) 記録・情報のICT化の推進 (2) 経費削減	通年	(1) 記録の電子化をすることで業務の円滑化を図り他の運用費を減らしていく。 (2) 書類、報告書等が無駄を省き削減に努める。
	(1) 業務の見直しと経費削減 (2) 中領事連絡の整成	通年	(1) 改善改修から買い換えに繋がらないように定期的な設備点検・メンテナンス依頼をします。 (2) 部下を信じ、良さを認め合う風通りの良い職場環境づくりを目指す。
(V) 異動の変化に適応する体制	(1) 対応の重視 (2) 定期的面談	通年	(1) 営業内閣及び人間関係での講話に、一人で抱え込まないよう、面談を重ね、信頼関係を構築する。

4) ケア第3(さくら・ひまわり)

重点目標		具体的目標		指標・成果		到達時期		具体的行動計画																								
						4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月															
(1) 利用者サービスの実現	① 利用者の尊重	(1) 入居者のニーズを大切にする (2) 個別の特徴を重視したサービスの実現	通年	(1) 出来る限り、利用者の意向に沿った、個別ケアを実施していく。 <	<	(1) 定期的なケース会議の実施。 ・利用者の対応が変更になった際は、連絡帳で周知する。 ・残存機能を見極め・生かした介護を行う。	通年	(1) 定期的なケース会議の実施。 ・利用者の対応が変更になった際は、連絡帳で周知する。 ・残存機能を見極め・生かした介護を行う。 (2) 利用者の嗜好品を購入し、提供する。 ・個々のニーズに沿ったサービスを提供する。	通年	(1) 家族が面会に来られた際は、利用者の近況の状況を報告し要望などを伺います。また状態が変化した場合は、随時連絡をします。 (2) イベントの前には、フロアの出入り口の掲示板でお知らせします。 ・行事の前には、お知らせを郵送します。(5月：春の遠足、7月：納涼祭、9月：敬老会、10月：秋の遠足)	通年	(1) 家族が面会に来られた際は、利用者の近況の状況を報告し要望などを伺います。また状態が変化した場合は、随時連絡をします。 (2) イベントの前には、フロアの出入り口の掲示板でお知らせします。 ・行事の前には、お知らせを郵送します。(5月：春の遠足、7月：納涼祭、9月：敬老会、10月：秋の遠足)	通年	(1) 地域密着会議を実施します。(6月・9月・12月・3月)	3ヶ月に1回	(1) 地域密着会議の相い手として、対応困難者を積極的に受け入れます。	通年	(1) 地域密着会議を実施します。(6月・9月・12月・3月)	3ヶ月に1回	(1) 地域密着会議の相い手として、対応困難者を積極的に受け入れます。	通年	(1) 施設内研修に際しては、出来る限り参加するようにする。 ・施設外研修に際しては、事前に参加希望者を募り、希望者に参加してもらいます。 ・参加希望者がいない場合は、研修内容に適した職員に参加を打診する。	通年	(1) 業務の見直しを行い、業務改善をしていく。 (1) 有給での長期連休が取得可能となるよう業務改善に取り組む。 (2) 出勤、退勤時は、あいさつをする。 (2) ワーカー同士、日々コミュニケーションを取り、連携を強化する。	通年	(1) 業務の見直しを行い、業務改善をしていく。 (1) 有給での長期連休が取得可能となるよう業務改善に取り組む。 (2) 出勤、退勤時は、あいさつをする。 (2) ワーカー同士、日々コミュニケーションを取り、連携を強化する。						
	② 高い自立支援	(1) 集会時のコミュニケーションを大切にする (2) 行事やイベントなどにご家族が参加しやすい ように工夫や配慮をします																														
	③ 異なる連携	(1) 地域共生社会を目指したサービス	通年	(1) 地域密着会議の実施	(1) 地域密着会議の実施	3ヶ月に1回	(1) 地域密着会議を実施します。(6月・9月・12月・3月)	通年	(1) 地域密着会議の相い手として、対応困難者を積極的に受け入れます。	通年	(1) 地域密着会議を実施します。(6月・9月・12月・3月)	3ヶ月に1回	(1) 地域密着会議の相い手として、対応困難者を積極的に受け入れます。	通年	(1) 施設内研修に際しては、出来る限り参加するようにする。 ・施設外研修に際しては、事前に参加希望者を募り、希望者に参加してもらいます。 ・参加希望者がいない場合は、研修内容に適した職員に参加を打診する。	通年	(1) 業務の見直しを行い、業務改善をしていく。 (1) 有給での長期連休が取得可能となるよう業務改善に取り組む。 (2) 出勤、退勤時は、あいさつをする。 (2) ワーカー同士、日々コミュニケーションを取り、連携を強化する。	通年	(1) 業務の見直しを行い、業務改善をしていく。 (1) 有給での長期連休が取得可能となるよう業務改善に取り組む。 (2) 出勤、退勤時は、あいさつをする。 (2) ワーカー同士、日々コミュニケーションを取り、連携を強化する。													
	④ 社会貢献への実現	(1) 住民福祉センターへの連携協定を取締役会 への実現	通年	(1) 研修への参加	(1) 研修内外の研修への参加	通年	(1) 施設内研修に際しては、出来る限り参加するようにする。 ・施設外研修に際しては、事前に参加希望者を募り、希望者に参加してもらいます。 ・参加希望者がいない場合は、研修内容に適した職員に参加を打診する。	通年	(1) 業務の見直しを行い、業務改善をしていく。 (1) 有給での長期連休が取得可能となるよう業務改善に取り組む。 (2) 出勤、退勤時は、あいさつをする。 (2) ワーカー同士、日々コミュニケーションを取り、連携を強化する。	通年	(1) 業務の見直しを行い、業務改善をしていく。 (1) 有給での長期連休が取得可能となるよう業務改善に取り組む。 (2) 出勤、退勤時は、あいさつをする。 (2) ワーカー同士、日々コミュニケーションを取り、連携を強化する。	通年	(1) 業務の見直しを行い、業務改善をしていく。 (1) 有給での長期連休が取得可能となるよう業務改善に取り組む。 (2) 出勤、退勤時は、あいさつをする。 (2) ワーカー同士、日々コミュニケーションを取り、連携を強化する。	通年	(1) 業務の見直しを行い、業務改善をしていく。 (1) 有給での長期連休が取得可能となるよう業務改善に取り組む。 (2) 出勤、退勤時は、あいさつをする。 (2) ワーカー同士、日々コミュニケーションを取り、連携を強化する。	通年	(1) 業務の見直しを行い、業務改善をしていく。 (1) 有給での長期連休が取得可能となるよう業務改善に取り組む。 (2) 出勤、退勤時は、あいさつをする。 (2) ワーカー同士、日々コミュニケーションを取り、連携を強化する。	通年	(1) 業務の見直しを行い、業務改善をしていく。 (1) 有給での長期連休が取得可能となるよう業務改善に取り組む。 (2) 出勤、退勤時は、あいさつをする。 (2) ワーカー同士、日々コミュニケーションを取り、連携を強化する。													

社会福祉法人 敦和会
2019年度事業計画書

	(③) 滅失取扱の推進と強化	(1) スキルアップのための資格取得の推進 (1) 記録、ICT化の推進。 (2) 消耗品の使用状況を把握し、無駄を省いた経費削減	通年	(1) 介護職として必要と思われる資格や情報があれば、随時伝えていく。
	(①) 業務の効率化と経費節減 (A) 敷地の整理と運営する維持		通年	(1) ICT 委嘱を中心に、記録の ICT 化を進める (2) 消耗品の使用状況を把握し、無駄を省いた経費削減に取り組む。

5) 施設ケアマネージャー

重点目標	具体的目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画								
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(一) 利用者の基盤	① 利用者の基盤	[1] 入居者と家族のニーズに添った計画の作成	通年	[1] 個人の特性(人口し、心身の状況)を把握、適切な支援につなげる。 [2] 本人や家族から意向を確認し、入居者の想いが反映された正しい計画の立案。								
		[2] 実心して暮らしを送れるように支援する										
(二) 利用者一人ひとりの充実	② 壱の高い自立支援	[1] 各スタッフとの連携を円滑に図る	通年	[1] 支援に関わるスタッフとの連携により質の高い支援につなげる。								
		[2] 家族との連携		[1] 信頼関係の構築 [2] 生活に家族参加の機会を作る								
(三) 地域共生社会への実践	③ 地域共生社会を目指したサービス	[1] 外出の機会を作る	通年	[1] 行きや地域の差しの場に出かける機会を作る。								
		[2] 社会貢献への実践		[1] 地域の社会資源として、介護施設入居者の暮らしを気マネジメント面で支援する。								
(四) 地域連携における資源的取組み	① 研修の充実	[1] 施設内研修の参加 [2] 介護支援専門職の研修参加	通年	[1] 施設内研修の計画に従い、積極的に参加する。 [2] 外部研修に参加する。								
		[2] 人材定着のための取り組みとチーム力の育成		[1] 施設ケアマネを担う人材の育成 [2] 円滑な業務の連絡								
		(五) 資格取得の回り込む力(回遊力)の強化		[1] 資格保持者に施設のケアマネジャー資格を勧告かける。 [2] 施設で資格取得をサポートする。 [3] 効率的な業務の見直しと推進。								

社会福祉法人敬和会

2019年度事業計画書

	(1) ベーベースの取り組み (2)業務の効率化	(1) 塗料作成やコピー等は効率的、コスト削減を念頭に置き行う(委託の使用、面倒コピー等) (2)計画立案、会報、モニタリング、総括管理等、一連の業務をスマートに行えるように各部署と連携を図り、円滑なマネジメントにつなげる。	逐年
	(1) 挑戦アマチャとしての充実を図る 中間目標の育成	(1) 介護支援専門のスキルアップの研修参加やケアマネ同士の連携強化、意識を高める。	逐年
(2) 経営の透明性と開かれた組織			

⑥ 医務

重点目標	具体的目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画								
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
① 利用者の尊厳	(1) 利用者サービスの充実	(1) ご利用者の生活背景を理解する。 (2) ご利用者の意向にできるだけ沿ったケアの提供	常時	(1) 施設に入所される前の生活履歴の把握 (2) ご家族からの情報収集								
		(1) 他施設間で連携を探める。 (2) ご利用者に合ったケアを実現させる。 (3) ICTの活用		(2) ケアカンファレンスを理解し、個別プログラムの展開 (1) カンファレンス以外でも状況に合わせて気づいたことを協議していく。 (2) ケアプランの実施、モニタリング (3) ICTからの情報（移動ログラン、食事の摂取状況など）をケアに生かす。								
② 質の高い自立支援	(2) 地域社会との連携	(1) 家族とのコミュニケーションを図る (2) ご家族に愛着の能力を教える (3) 終末期の意向確認	常時	(1) ご利用者の状況を面会際、または必要時お知らせする。 (2) 気分委診が必要となった時、相談、依頼する。 (3) 終末期の意向は、入所時だけではなくご利用者に変化が見られたとき、または予測される時など何度も確認させていただく。 (2) 必要時、D.R.との話し合い。								
		(1) ショートステイの受け入れ (2) 在宅サービス担当者との連携	常時	(1) 在宅での生活を統てるためのサポート (2) ケアマネージャー、訪問看護師、主治医との連携 (2) ご利用者とその家族の意向に沿ったケアの実践								
③ 家族との連携	(3) 地域共生社会を目指したサービス	(1) 看護学生の受け入れ		(1) 看護学生の受け入れにより、特養の社会的役割や看護師としての資格を知つてもらう。	10月	(1) 局勢者の生活を理解し、視野を広げてもらえるような実習を提供する。 (1) 学生の意見を尊重し、振り返りや業務改善にフィードバックする。						
		(2) 社会貢献への実践		(2) 地域の懇親会及び外部研修の参加 (2) 地域包括の情報収集			(1)・(2) 施設内のことだけでなく、在宅で生活されている人にも目を向ける。					
④ 地域への連携供与	(4) 地域社会サービスへの連携協定の締結											

(Ⅲ) 職員の勤怠性の向上リード(回復力)の強化	① 研修の充実 ② 人材定着のための取り組みとチーム力の育成	(1) 施設内研修の参加 (2) 外部研修の参加	常時	(1) 施設内で知識、技術の向上に努めるだけでなく、敬和会のチームワークを円滑にする職員同士が相談、協力しやすい関係作り。 (2) 外部研修により得た情報や知識を共有するとともに、課題を見つけて業務に生かしていく。
	③ 個別取締の推進と強化	(1) 看護師間での情報共有 (2) 施設看護師としての役割と業務を理解する (3) コミュニケーションを通してお互いを尊重する	常時	(1) 情報交換の中で、困っていることや疑問に思っていることなどが相談しやすい雰囲気作りを心がける。 (2)・(3) 看護師の業務を実施していく上で、お互いの性格や仕事に対する姿勢などを把握しながら不足を補ったり、プラスを最大限にできるような協調性を持つことを意識する。
	④ 利用者定数を施設化	(1) 看護師などで知識を増やす。 (2) 外部研修報告を共有し知識に繋げる。	常時	(1) 看護師の変遷により必要な情報を収集する。 (2) 勉強会や外部研修の参加
	⑤ 業務の見直しと経営部域 ⑥ 中間管理職の育成	(1) 病床の変化を予測し、準備しておく。 (2) 医療依存度の高い利用者の受け入れ	常時	(1) 入退所委員会、事前面接において、医療的な視点で見る、判断する。 (2) 医療依存度の高い方であっても、ご家族の意向を確認し受け入れていく。
		(IV) 施設の強化と運営方の強化		

ア) 栄養

重点目標	具体的目標	培根・成果	到達時期	具体的行動計画											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
(一) 利用者サービスの充実	① 利用者の尊重	(1) 高齢者の食べや可愛い食事の提供の創造 (2) 各施設、サービスに適した食事の個別化 (3) 新規のイベント企画の実施	逐年	(1)・(2) 常食、高齢者との分類を分け食事提供ができるよう計画を進める (3) 新規のイベント食を立案し食事の楽しみを皆つことができるように企画実施する											
	② 食の高い信頼支援	(1) 栄養マネジメントにおける個人別への適応化	逐年	(1) その利用者個人に対して最適な栄養、食事サービスが提供できるよう多職種協働にて対応する											
(二) 施設運営サービスの充実	① 地域共生社会を目指したサービス	(1) 栄養教育、食育の推進	逐年	(1) 1回／月の【いきいき音楽療教室】の実施 (2) けいわ保育園、星の子保育園と連動しての子供たちへの食育の実施【魚の骨体イベント等】											
	② 社会貢献への実践	(1) 地域包括支援センターと連携し高齢者に適した 仕出し弁当のサービスの提供 (2) デイサービス利用者に対してのアセスメントに 配慮した弁当サービスの提供	逐年・随時	(1) 地域包括支援センターと連携し高齢者に適した 仕出し弁当のサービスの提供 (2) デイサービス利用者に対してのアセスメントに 配慮した弁当サービスの提供											
(三) 人材育成サービスの充実	① 研修の充実	(1) 敬和会栄養部門合同研修の実施 (2) 外部研修への積極的参加	逐年	(1) けいわ班、えまーるる、保育園の栄養課と合同の研修の実施 (2) 栄養士、看護師の外部研修の積極的参加											
	② 人材定着のための取り組みとチーム 力の育成	(1) 激励的な意見交換 (2) 部署内面談の実施	1回／半年	(1) 係長と部署内の現状と問題点、個人への働き部分等について個人面談を行う (2) パート職員会議連携会議 正職員十角長											

社会福祉法人敬和会
2019年度事業計画書

(Ⅱ) 営業の見直しと経営基盤	① 営業の見直しと経営基盤	(1) 市場内のコスト管理の見直し (2) 敬和会全体の販売業務のコスト管理の見直し	逐年	(1) 退勤先生の生産と確認 (2) 在庫品が出てしまった場合の有効活用
	② 中間管理制度の育成	(1) 特養、ユニット、ケアハウス、デイサービス等の各部署への担当配置（管理栄養士）を行い責任感、やりがいを持たせる。	逐年	(1) 各部署への管理栄養士の担当化及びイベント等の主導、実施

2. 地域支援課

(基本目標)

利用者の意志及び人格を尊重し、「安らかなる老人の生きがいを守り育む」の精神を重んじ、常に利用者や家族の立場に立ったサービスの提供に努めます。
 また、利用者が住み慣れた地域の中でのいつど同じように、「自分らしく」笑顔で自立した生活が出来る様に努めます。
 在宅支援も地域包括ケアシステムによる医療・介護等の多職種との連携を強め、協働を図り、利用者が安心・安全に地域で生活が出来る様に見守り、支え合えるようにします。
 また、業務の効率化を図る為、ICTを利用し人手不足にも対処出来る様に努めます。

1) 居宅介護支援

重点目標	具体的な目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画								
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(一) 利用者サービスの充実	① 利用者の尊重 ② 愛の高い自立支援 ③ 家族との連携	(1) 利用者の想いを大事にした計画作成。 (2) 利用者の状況に合わせたサービス選定 (1) 自助・互助を始めたケアプラン作成。 (2) 因別化された層操作成とそれに伴う支援の評価の実施。 (3) 運営した情報共有とICTへの取組み。 (1) 駐留施設に気軽に相談出来る機会を作る。 (2) 日常的な介護への参加。 (1) 地域主導の活動等への参加 (2) 地域ケア会議の参加。	毎年	(1) 個々のアセスメント能力の向上と利用者との信頼関係の構築。 (2) 相談しやすい関係作り。サービス選定に役立つ資料作成。 (1) 利用者・家族のエンパワーメントを把握。 (2) 利用者のニーズに合わせた自立操作成と定期訪問時のモニタリングを実施。 (3) スマートフォンを活用し、他職種との情報共有の速度を上げる。 (1) 面談機会や連絡を取りれる手段を確保する。 (2) 家族のサービス担当者会議参加と家族の有するニーズを把握。								
(二) 地域連携の強化	① 地域住民社会を目指したサービス ② 社会貢献への実績	(1) 地域連絡体制の確立。 (2) 地域資源を把握し必要時に発信する。 (3) 介護支援専門員実務研修実習受け入れ (1) 地域社会や企業等に雇用出来る連絡体制を構築する。 (2) 地域にある資源を把握し、ケアマネジメントからみた地域に不足しているサービス等があつた際には積極的に発言していく。また充足出来る様に努力出来る体制を作成する。 (3) 介護支援専門員養成生を受け入れる。事業所での採用への展開	毎年	(1) 包括センター主催の研修会への参加。 (2) 依頼があつた際の情報提供と地域ケア会議への参加。								

社会福祉法人敬和会
2019年度事業計画書

③ 地域への貢献	(1) 地域包括支援センターや各種団との協働。	毎年	(1) 市・地域で開催される連絡会への参加と協力・情報発信。		
			(1) 年間研修計画を作成し、個々の目標に沿った研修会への参加。参加した研修内容の伝達を事業所内で行う。		
(三) 顧客の尊厳の回りとりサービス(回復力)の強化	① 研修の充実	(1) OUT・OFF-JTへの参加。	(1) 毎年	(1) 週1回ミーティング、事例検討会を開催する事で対処法を検討・共有する。 (2) 公休以外に有休を取得しやすい環境を作り、学業に対するストレスの軽減を図る。また、植物等を職場に設置する事で窮屈気を良くする。 (3) 定期的に主任ケアマネジャーとの個人面談機会を作る。	
	② 人材定着のための取り組みとチーム力の育成	(1) 個人の悩みを事業所で共有し切磋する。 (2) 明るい環境・雰囲気作り。 (3) 定期的なスーパービジョンの実施。	毎年	(1) 新規取得の為の病院・包括支援センターへの官能。 (2) 事業所加算維持に必要な事務業務・資格の取得、維持。	
	③ 資格取得の推進と強化	(1) 主任ケアマネジャー資格取得の推進。 (2) ケアマネジメント業務に必要な資格取得の推進。	毎年	(1) ベーバースへの取組。 (2) 他の市のNEXTシステムの活用	(1) ICT・スマートフォンを活用した情報管理と発信。 (2) ほのぼのNEXTを活用した利用者情報管理・出力(医療連携シート・課題整理録活用等)
(四) 事業の運営の効率化とサービス品質の向上	① 利用量定数を満たす	(1) 1人35件担当する事を目指す。 (2) 特定事業所加算Ⅱを維持。	毎年	(1) 定期的な面談機会を持ち、意向について相談を受ける機会を作る。 (2) 対人援助技術を向上出来る研修会へ参加し、事例検討時等に活躍する。	
	② 業務の見直しと経費削減	(1) 雇員の意向把握ヒマネジメント。 (2) コーチング出来る人材の育成。	毎年		
③ 中間管理職の育成	(1) 雇員の意向把握ヒマネジメント。 (2) コーチング出来る人材の育成。				

2) 短期入所生活介護

重点目標	具体的目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画								
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
① 利用者の尊重	(1) 利用者及び家族の想いを把握する。	遙年		(1) 施設で開催される各種イベントへ参加し利用者との交流を深める。 担当者懇談等で家族の意見・要望を聞く時間を設ける。								
② 貨の高い自立支援	(1) 知り得た情報をもとに自身で出来る事を探やす。	遙年		(1) 看護師・理学療法士等施設職員と協働し、利用者のADLを把握する。 利用者の状態を把握した上で個別化された介護計画を作成・実施する。								
③ 家族との連携	(1) ケアマネジャーや家族との連携・情報の共消化を図る。	遙年		(1) 緊急時等に連絡を取れる手段を確保する。 担当者会議等には出来る限り出席し情報発信・共有を行う。								
④ 地域社会への貢献	(1) 地域活動等への参加。	遙年		(1) 職員等子供たちとの交流会・奉仕活動・作品展等の地域活動へ参加する。								
⑤ 地域共生社会を目指したサービス	(1) 地域の方々が安心して利用して頂ける様に努力する。	遙年		(1) 緊急時等、地域の方が必要とされている時に迅速に受け入れを行える様、努める。								
⑥ 社会貢献への実践												

社会福祉法人敬和会
2019年度事業計画書

		(1) 増強内研修の参加・外部研修の参加。	毎年	(1) 施設内外で行われる研修会への積極的に参加する。 企画された OUT・OFF-JTへ参加する。
①	研修の実施	(1) 施設同士が連携し合える環境作り。 働きやすい就職作り。	毎年	(1) 笑顔を心掛け、業務に向き。 相談しやすい雰囲気を作れるよう努める。
②	人材定着のための取り組みとチーム力の育成	(1) 現勤率 85%以上を維持する為の新規利用者の確保。	毎年	(1) 包括支援センターや各事業所のケアマネジャーとの連携を図り、積極的な受け入れを行う。
①	利用者定数を關注す	(1) ベーバーレス化を目指した経費削減。	毎年	(1) ICTを活用し、業務の効率化を図る。電子媒体を利用した情報のやり取りを行う。 う。電気等は必要に応じてこまめに消灯する。
②	業務の見直しと経費削減	(1) 管理業務の見直し。	毎年	(1) 各部門が専任している業務を見直しする。
③	中間管理職の育成			

3) 通所介護

重点目標	具体的な目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画								
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
① 利用者の尊重	(1) 利用者及び家族のニーズの把握 (2) 季節行事や各種イベントの充実	遅年										
		[1] 季節行事、各種イベントの起業から実施										
② 質の高い自立支援	(1) チームケアの強化	遅年										
		[1] 記録等のICT化の推進 [2] チームでのケアを意識した、役割の点検確認										
③ 家族との連携	(1) 家族との連携強化 (2) 家族が参加できる行事の立案	遅年										
		[1] 連絡ノートの書式変更の検討 [2] 家族参加ができる行事の企画及び立案										
（1）利用者一人ひとりの実状	(1) 地域サービスとの連携強化	遅年										
		[1] 地域包括支援センターとの連携を行なう。 [2] 地域のアマネジャー及び、その他のサービス事業所との連携										
（2）社会貢献への実績	(1) 実習生の積極的受入れ (2) 社会貢献への実績	遅年										
		[1] 教員実習生、看護実習生の積極的な受入れを行なう。 [2] 小中学生等の職場体験実習等の受入れ										

社会福祉法人 敬和会
2019年度事業計画書

(Ⅲ) 営業の機能性の向上とチーム力 (回収力) の強化	① 研修の実施 ② 人材定着のための取り組みとチーム力の育成	(1) 事業所内研修の計画的実施 (2) 施設内研修の参加 (3) 外部研修参見の推奨	毎年	(1) 年間計画に基づき、事業所内研修を実施。 (2) 施設内研修への積極的な参加。 (3) 外部研修情報を積極的に共有し、参加を推奨。
				(1) 事業所全体での話し合いと、個別での相談が行なえる環境と時間を作る。 (2) 事業所運営の目的意識をスタッフ全員で共有できるよう、事業所の目標を設定し、定期確認。
(Ⅳ) 業務の効率化と品質の強化	① 利用者数の増加 ② 業務の品質化	(1) 新規利用者の積極的な受入れを継続する。 (2) 利用者数の受入れが急激に増加した際の対応。 (1) 事業業務の効率化 (2) 業務品質	毎年	(1) 新規利用者の積極的な受入れを継続する。 (2) 駐車利用者にとって、魅力のあるサービスを提供し、増回希望に応げる。
				(1) 記録関係のICT化を進め、業務の効率化を図る。 (2) 消耗品の物品購入量をチェックし、無駄を減らせるようになります。
(Ⅴ) 事業の変化に適応する体制	① 中間管理業務分担の見直し ② 各業務を複数の職員が行なえる体制作り ③ 中間管理職の育成	(1) 中間管理業務分担の見直し (2) 各業務を複数の職員が行なえる体制作り	毎年	(1) 各役職が専任している業務 (2) 役職間での分担変更、又はケアワーカーに分担することで、各々のスキルアップを図る。

4) 訪問介護（障害福祉サービスを含む）

重点目標	具体的目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画								
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
① 利用者の尊重	(1) 気持ちよく安心、安全に生活が繼續できる。 (2) 全分らしく、いつも同じように笑顔で生活ができる。	(1) 生活環境を整え、身体・居室の清潔保持・環境整備。 (2) 利用者の意向を汲み取りその立場に立ち、考え方行動する。	通常									
② 質の高い自立支援	(1) できないことができるようにならやすく、見守り的サポート。 (2) 状況に合わせた、きめ細やかな距離。 (3) 個別介護計画の評価。	(1) 身体の疲労や安全を確認しながら、一緒に見守り声かけする。 (2) ちょっとした変化も敏感に察知し、速やかに報告・記録ができる。 (3) モニタリングを行い、評価・見直し・検討を行う。	毎年									
③ 家族との連携	(1) 相談援助が出来る信頼関係を築く。 (2) 介護方法の助言（指導）が出来る。	(1) 魅みやつらさを避け止められる知識を得る。 (2) 身体介護技術の仕方をわかるように指導できる。（オムツの当て方、入浴方法等）	通常									
④ 地域共生社会を目指したサービス	(1) 地域ケア会議との連携。 (2) 地域ケア会議への参加。	(1) 包括支援センター主催の研修への参加。 (2) 地域ケア会議への参加（医療、障害者相談支援センター、地域の方々等）	毎年									
⑤ 社会貢献への参画	(1) 初任者研修・介護福祉士実習生の受け入れ。	(1) 専門学生等に訪問介護の研修を行う。	毎年									
⑥ 地域への貢献共創		(1) 地域包括支援センターとの協働 (2) 地域手当方法等、地域の方々と学ぶ。年1回。	1月									

社会福祉法人敬和会
2019年度事業計画書

① 研修の充実	(1) 研修研修(定期に行う研修)。 (2) 外部研修への参加。	通年	(1) ヘルパー会議月1回開催 内容: 認知症、接遇、倫理、法令遵守、虐待、感染症、事故防止、ヒヤリハット、個人情報・プライバシー等 (2) 訪問介護に必要な情報・資料が入った時に、積極的に参加。
	(1) 魁きやすい職場環境。 (2) 相談できる環境。	通年	(1) 相手の立場に立ち、意見交換など何でも話し合える環境を作る。 (2) 公私に渡り、悩みや困ったこと等相談ができる環境を作る。
② 人材定着のための取り組みとチーム力の育成	(1) 介護福祉士受験合格支援。	通年	(1) 資格取得のための研修機会の提供→受験→介護福祉士資格取得。
	(1) 新規利用者の確保。	通年	(1) ケアマネ事業所への参画 (新規利用者の獲得) (1) 空きがないよう断然らずに受け入れる。
③ 滞在取扱の推進と強化	(1) 利用者定数を増やす	通年	(1) ほのぼのNEXTシステムの活用。 (2) ベーパーレス化による経費削減。 (3) 事故防止。
	(2) 業務の完璧化と経費削減	通年	(1) ほのぼのNEXTシステムの活用。 (2) ベーパーレス化による経費削減。 (3) 事故防止。
④ 中間管理層の育成	(1) サービス提供責任者への育成。	通年	(1) サービス提供責任者の研修への参加促し、助言、指導等を行う。
	(2) 事業運営の実践的知識の習得	通年	

3. 敦野地域包括支援センター

(基本目標)

- (1) 誰もが地域で安心して過ごすことができるように、包括的および継続的な支援を行います。
- (2) 誰もが安心して暮らせる地域包括ケアを推進します。
- (3) 事業所移転（旧敦野公民館）への準備をていきます。

重点目標	具体的目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画								
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(一) 利用者の尊厳	(1) 利用者の尊厳を守り「精神に・・・」をモットーに、適切な支援を行います。	(1) 利用者の尊厳を守り、「精神に・・・」をモットーに、適切な支援を行います。 (2) 地域に住む誰もが尊重され、暮らしやすい街づくりを目指します。	通年									
(二) 質の高い自立支援	(1) 認知症になっても地域で生活できるよう支援します。 (2) 利用者のもつ力や可能性に注目し、発揮できる環境を作る支援をします。	(1) 認知症になっても地域で生活できるよう支援します。 (2) 利用者のもつ力や可能性に注目し、発揮できる環境を作る支援をします。	通年									
(三) 家族との連携	(1) 家族の思いを豊か止め、寄り添い、家族のエンパワーメントを目指します。 (2) 介護家族会「若草の会」をさらにおめさせ、連携を深めています。	(1) 家族の思いを豊か止め、寄り添い、家族のエンパーメントを目指します。 (2) 介護家族会「若草の会」をさらにおめさせ、連携を深めています。	通年									
(四) 地域共生社会の実現	(1) 地域ニーズと地域資源を有機的に結びかけ、地域包括ケア社会の構築を推進しています。 (2) 生活支援コーディネーターを支援し、第二回「吉澤さん生活支援懇親会」の活動を活性化し、引き続き地域の医療所、ゆるやかな見守り、買い物支援等地域に必要なサービスの実現に努めます。	(1) 地域ニーズと地域資源を有機的に結びかけ、地域包括ケア社会の構築を推進しています。 (2) 生活支援コーディネーターを支援し、第二回「吉澤さん生活支援懇親会」の活動を活性化し、引き続き地域の医療所、ゆるやかな見守り、買い物支援等地域に必要なサービスの実現に努めます。	通年									
(五) 地域福祉サービスへの累積	(1) 地域福祉推進会議、しゃがせクラブ、地域の尼崎所作り等地域活動への人材支援、経済的支援などを行ないます。	(1) 地域からの要請に積極的に応えています。	通年									

社会福祉法人敬和会

2019年度事業計画書			
③ 地域への便益共創	<p>(1) 学校や地域にある組織等からの講師派遣の要請に応えていきます。</p> <p>(2) グリーンカフェを地域の医療所として、会議やまり縁、イベント等様々な場面に提供していくきます。</p>	逐年	<p>[1] 講師派遣を積極的に行います。</p> <p>[2] 地域からの要請に応えていきます。</p>
① 研修の充実	<p>(1) 地域包括ケア社会を構築するために必要な研修を受けていきます。</p> <p>(2) 各々の地域ニーズに対応できるようスキルアップを目指します。</p>	逐年	<p>[1] 必要だとと思われる研修の機会を捉え、職員の参加を促します。</p> <p>[2] 研修への参加とともに、自己研鑽できるよう支援します。</p>
② 人材定着のための取り組みとチーム力の育成	<p>(1) 各人の専門性を生かし、必要に応じてチームで支援を行うことにより、連携感を醸成します。</p> <p>(2) 困った時等、相手に協力を惜しみません。</p> <p>(3) 明るい雰囲気によるよう協力します。</p>	逐年	<p>[1] 困難ケース等に対しチームアプローチにより、迅速でより適切な支援で課題解決を行ない、成功感や充実感を共有します。</p> <p>[2] 気軽に相談し、互いに応えられる職場環境をつくります。</p>
③ 資格取得の推進と強化	<p>(1) 各人が自ら資格取得やスキルアップなどの研修等参加のための有給取扱等の支援を行い、応援します。</p>	逐年	<p>[1] 各人の資格取得やスキルアップを支援します。</p>
① 事業所移転（日野野公民館）のための準備	<p>(1) 移転に伴う経費をできるだけ抑えるよう計画し実行します。</p>	逐年	<p>[1] 改修工事着手の準備</p> <p>[2] 改修に伴う計画と予算作成</p>
② 管理の見直しと経費削減	<p>(1) 経費を見直し、対率よく業務ができるよう工夫します。</p> <p>(2) 資源の有効活用ができるよう努力します。</p>	逐年	<p>[1] 各人が適正な仕事量となるように創意工夫をします。</p> <p>[2] 資源の無駄使いをなくします。</p>
③ 中間管理職の育成	<p>(1) 勤員全員が事業の在り方・法人経営を考えることができる人材育成に努めます。</p>	逐年	<p>[1] 各人が地域包括支援センターの在り方・法人経営しながら行動できるよう意識を高めていきます。</p>

4. ケアプランセンターにおける

(基本目標)

住み慣れた自宅での生活が、可能な限り継続できるよう多職種と連携し、利用者本位の支援の実現。

重点目標	具体的目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画								
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
① 利用者の尊重	(1) 本人・家族の意向の確認を丁寧に行う (2) 自立支援のためのアセスメント力の向上	遙年		(1) 聞く力と潜在的なニーズを読み解く力の向上 (2) サービスにのみ頼るのではなく、利用者と家族の力を引き出す力の向上								
② 順の高い自立支援	(1) 事業所内のチームワークの更なる強化 (2) 处遇困難事例の判断力の強化 (3) チーム形成力の強化	遙年		(1) 毎朝の朝礼による事業所内利用者の情報共有 (2) 困難事例の情報共有・関係機関との連携強化 (3) サービスマネジメント力の強化								
③ 家族との連携	(1) 最後まで自信で暮らせる支援 (2) 思いの共有	遙年		(1) 公的資源・インフォーマル資源の活用技術の向上 (2) ケアプランに対する家族の積極的参加。								
④ 地域共生社会への実践	(1) 地域包括ケアシステム構築 案への提案 (2) 社会貢献への実績	遙年		(1) 地域包括ケアシステム構築への協働 (2) 南毛利地域包括支援センターとの協働								
⑤ 地域課題におけるの課題的取り組み	(1) 地域包括支援センターとの協働 (2) 地域の開拓範囲との連携	遙年		(1) 地域の児童困難事例を受け入れ地域課題の解決の一助を担う (2) 地域包括支援センターとの協働								

社会福祉法人敬和会
2019年度事業計画書

① 研修の充実	(1) 職員研修の充実（学びあう） (2) 外部研修の参画（学びあいのできる機会をもつて交換）	① 施設内研修（年3回）の参加。 ② 多くの外部研修への参加	毎年
	(1) 理解し合える同僚や目標とする先輩職員との面接 (2) 適切やすい職場環境	① 日々のミーティングの開催で悩みや直面している課題を共有し、事業所として問題可決にあたる ② 何でも相談できる職場環境づくりと休暇の取りやすい環境づくり	毎年
② 人材定着のための取り組みとチーム力の育成	(1) 主任介護支援専門員研修	① 実務経験5年経過後主任介護支援専門員研修受講支援	毎年
	(2) 賃給即時化		
③ 勤務の柔軟性の強化	(1) 勤勤標準件数35件 (2) 非常勤件数25件 (3) 新規の就業形態受け入れ	①(1)(2)(3) 定員に空きが出た際は速やかに地域包括支援センターへ情報提供実施	毎年
	(1) 利用者定数を減らす (2) 契約の見直しと経費節減	① 効率の良い支給方法の確立・ミスプリントを減らす ② 外出時の消灯	毎年
④ 勤務の柔軟性の強化	(1) 業務の効率化と改善 (2) 水道光熱費の節約	①(1)(2)教育の取り組み (2)コーチング教育の取り組み	毎年
	(3) 中間管理職の育成	①(1)(2)主任介護支援専門員によるコーチングの実施	
(III) 勤務の柔軟性の強化とチーム力（目標力）の強化		(IV) 勤務の柔軟性の強化と経費削減	

5. えまーぶる

(基本目標)

『人が環境をつくり、環境が人をつくり成長する』

- ① 家族もスタッフも『介護』が楽しいと思える環境づくり。
 ② モチベーションが自然に保てる『頭と生活』の環境づくり。

1) 通所介護事業所えまーぶる

重点目標	具体的目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画								
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(I) 利用者サービスの充実	① 利用者の尊重 ② 質の高い自立支援	・ その人らしさの実現 ・ 外出機会の提供 ・ 権利のプログラムの検討	毎年	(1) 家族との交流機会を設定 (2) 社会参加の機会を設ける (3) その他のニーズに合わせた計画の立案と実施								
	③ 家族との連携	・ チームケアの方針を目指す ・ 委員会等活動を強化し、委員会主催の研修実施 ・ 鹿特防歟研修の実施	毎年	(1) 業務の見直し・シフトの見直し (2) 毎月正職会議、職員会議を実施し、進捗状況を確認、共有する (2) 勤務安全衛生委員会、感染症委員会、事故防止委員会、身体拘束委員会の推進								
	④ 地域共生社会を目指したサービス	・ 主要行事への参加 ・ 一帯の介護 ・ 家族との共生	毎年	(1) 主要行事（えまーぶる祭）への参加、協力体制の構築 (2) ケアプランに対する家族の積極的参加 (3) 家族との情報関係の標準強化（担当者会議、リハビリ訪問等）								
	⑤ 地域福祉センターへの接続	・ 家族・地域に向けた介護教育室の開催 ・ 地域活動の特性と参加 ・ 多職種間の連携強化	毎年	(1) 地域の身近な介護相談窓口機能の構築 (2) 自治会、他事業所との交流、情報交換 (3) 厚木地域包括支援センター、厚木南地域包括支援センターとの協働								
	⑥ 社会貢献への実績	・ 介護福祉士実習生の受け入れ ・ 看護実習生の受け入れ ・ 小学校体験学習の受け入れ	毎年	(1) ·(2) 大学生・専門学生の実習受け入れによる採用への展開 (3) 社会貢献の一環として、実習生を積極的に受け入れ、(外部評価への参考が) 6/24~6/28・7/1~7/5 神奈川工科大学看護部 10月ごろ 厚木中学校								

社会福祉法人敬和会

2019年度事業計画書

	③ 地域への貢献	(1) 地域包括支援センターとの協議 (2) 学生ボランティアの受け入れと育成	毎年	(1) 利用者家族に向けた在宅介護の知識や方法をテーマに介護教室の開催。 (2) 介護等体験事業の学生の受け入れ。地域の中学校の授業体験受入れ。
	① 研修の充実	(1) 職員研修の充実 (学びあう) (2) 外部研修の実施(学びあい)ができる機会をもつ 意見交換	毎年	(1) 施設内研修（年3回）の活性化。 (2) 多くの外部研修機会を供与（派遣・食事・宿泊吸引・認知症・構造ケア等） (3) 人権研修、個人情報保護研修、虐待防止研修、身体拘束防止研修等
	② 人材定着のための取り組みと チーム力の育成	(1) 球蹴し合える同僚や目標とする先輩職員との 意見交換 (2) 法人事務局との面談（新卒職員・中途採用職員） (3) 勉強やすい環境整備	毎年	(1) 意見交換 (1)・(3) 何でも相談できる職場環境づくり (1カ月後・3カ月後・6カ月後・1年後・他必要に応じて)
	③ 資格取得の推進	(1) 資格未取得の職員への初任者研修受講 (2) 介護福祉士資格取得支援	毎年	(1) 初任者研修受講・認知症介護実践者リーダー研修 (2) 資格取得のための研修機会の提供→受講→介護福祉士資格取得
	④ 利用者定数を滿足する	(1) 受動率の完走化 (2) 新規利用者の確保	毎年	(1) 受動率報告（月ごとに職員会議にて実績共有） (2) 多職種間の連携による新規利用者の獲得
	⑤ 業務の効率化と改善	(1) 介護職員の負担軽減 (2) 利用者の安全且つ職員の 負担軽減を図る。 (3) ランニングコストの削減	毎年	(1) ICTの促進による介護職員の負担軽減を図る (2) メールの活用によるペーパーレス化を推進 (3) 利用者本位のケアができるシフトの検討 (4) 支出の多くを占める（水道代・電気代等）ランニングコストを如何にして削減するか
	⑥ 中間管理職の育成	(1) マネジメント教育の取り組み (2) コーチング教育の取り組み (3) 通した教育を行う環境の整備	毎年	(1)・(2) マネジメント教育研修・コーチング教育研修への参加 (3) 初任者キャリアパス対応専門研修
(IV) 職場の文化に適応する体制				

2) 居宅介護事業所えまーぶる

重点目標	具体的目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画								
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
(1) 利用者サポートの充実	① 利用者の尊重	(1) 本人の意向確認を丁寧に行う (2) 適切なアマネジメントの実施	通年	(1) 利用者の生活史、価値観を尊重したケアマネジメントを実施する (2) ケアマネジメントの一連の流れを滞りなく行う								
	② 要の高い自立支援	(1) 自立支援のためのアセスメント力の強化 (2) 困難事例の対応力の強化	通年	(1) 利用者、家族、地域社会の力を尊重したケアマネジメントの実施 (2) 困難事例の情報共有、関係機関との連携強化								
	③ 家族との連携	(1) 家族との信頼関係の構築 (2) 最後まで自宅で暮らせる支援	通年	(1) 家族の意向確認を行なう (2) チームケア及び関係機関との連携の強化								
	④ 地域共生社会を目指したサービス	(1) 地域包括ケアシステム構築への協働	通年	(1) 地域包括センターとの協働及び、身近な相談窓口としての一助を担う								
	⑤ 社会貢献への実践	(1) 处理困難事例の受け入れ	通年	(1) 处理困難事例を受け入れ地域課題の解決の一助を担う								
	⑥ 地域への貢献	(1) 地域包括支援センターとの共創 (2) 地域の関係機関との連携	通年	(1) 厚木地域包括支援センター、厚木南地域包括支援センターとの共創 (2) 地域包括支援センター、行政、民生委員との連携強化								

社会福祉法人歴人会事業計画書

① 研修の充実	(1) 職員研修の充実（学び合う） (2) 外部研修の奨励（学び合いの出来る機会を持つ）	毎年	(1) 部室内研修への参加(年3回) (2) 多くの外部研修への参加		
				(1) 毎朝のミーティングで情報を共有し、悩みや課題の問題解決に当たる (2) 気軽に相談や意見交換ができる職場環境づくり	
② 人材定着のための取り組みとチーム力の育成	(1) 理解し合える回数や目標とする先輩職員との面 見交換 (2) 勉強やすい職場環境	毎年		(1) 主任介護支援専門員研修の受講支援	
③ 資格取得の推進と強化	(1) 主任介護支援専門員取扱	毎年		(1) (2) 業務状況に応じ、柔軟に新規を受け入れる	
④ 利用者定数を縮減	(1) 増刷標準件数35件 (2) 新規の委託を受け入れ	毎年		(1) (2) 自転車の活用による諸経費の削減と移動時間の短縮 (2) 自転車移動途中でのボスティング、軽量教材を意識した業務の実施	
⑤ 業務の効率化と改善	(1) 業務の効率化と改善 (2) 駅送料、水光熱費、消耗品の節約	毎年		(1) マネジメント教育の取り組み (2) コーチング教育の取り組み	
⑥ 中間管理職の育成	(1) 業務の効率化と改善 (2) 駅送料、水光熱費、消耗品の節約	毎年		(1) - (2) マネジメント教育研修、コーチング教育への参加	
(III) 職域活動記録の回り込みカード（回数尺）の変化		(IV) 職域の取り組み方の変化			

6. ケアハウスがりて

(基本目標)

ケアハウスがりては、入居者が「自分で自分らしく生きる」ことができるように対応する施設であることを目指しております。当施設では、入居者が「自分で自分らしく生きる」ことができるように支援すること、「健康で明るく、安心して暮らせる」生活の場として、生き甲斐のある、快適な生活を送つていただける環境維持に努めています。

入居者の個人の尊厳を保持し、入居者の立場で、きめ細かなサービスを提供する暖かく優しい施設として、個々のニーズに合わせた生活の組み立てを援助しつつ、地域とのネットワークを形成する社会資源としての施設であることを目指しております。
また、プライバシーの保護の重要性が認識されるようになつた現在、入居者の自己決定権を尊重しながら、今後ますます多様化するご要望に対しても、知識・技術の修得に努め、職務能力の向上に努めてまいります。

重点目標	具体的目標	指標・成果	測定時期	具体的行動計画												
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
(1) 利用者の尊厳と質の高い自立支援	(1) その人らしい暮らしの支援 (2) ケアハウスから地域に出かける	(1) 個々の入居者様が自らのA.O.L.、能力に応じた生活が維持できるよう、家族やアマボ、関係事業所等との連携を図る。 (1) 各々の思いやニーズ、希望等の情報をスタッフ間で共有して生活の満足感につなげる。 (2) 月2回の買い物外出（郊野地域の店）、シャトルバス利用の促進。 (2) 市内の福祉事業所の利用促進	通年	(1) 個々の入居者様が自らのA.O.L.、能力に応じた生活が維持できるよう、家族やアマボ、関係事業所等との連携を図る。 (1) 各々の思いやニーズ、希望等の情報をスタッフ間で共有して生活の満足感につなげる。 (2) 月2回の買い物外出（郊野地域の店）、シャトルバス利用の促進。 (2) 市内の福祉事業所の利用促進	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(2) 家族との連携	(1) 家族との情報共有	(1) 面会時に、日頃の生活について報告する事で情報共有を実現する。	通年													
(3) 地域共生社会を目指したサービス	(1) 生み慣れた地域での生活継続 (2) 地域共生社会を目指したサービス	(1) 別棟みの病院への受診支援 病院での医療支援	通年													
すべての課題的を取り組み	(1) 地域共生社会を目指したサービス (2) 社会貢献への実践	(1) 地域包括センターとの連携														

社会福祉法人敬和会
2019年度事業計画書

(III) 顧問の充実	① 研修の充実	(1) 施設内研修の参加 (2) 外部研修の参加推進	通年	[2] 施設内研修実施に重きをいたる意的な研修に参加。 [2] 外部研修に参加し、必要なスキルを高めて円滑な業務につなげる。	
		(1) 地域の取り組み作り ② 業務管理	通年	[1]報告、連絡、相談や、フロア内の情報がスムーズに把握できるよう必要な環境を整える。 [2] 健康診断の他、休職不貞等で勤務要員・交代を用意の行えるよう必要な準備を作り。	
	② 人材定着のための取り組みチーム 力の育成	(1) 働きやすい職場作り ② 業務管理	通年	[1] 内・外部事業所と連携的な連携を図ることでケアハウスの利用を促進する機会を増やす。 [2] 施設見学や体験入居利用の推進 [3] ケアハウス（えがひで）の広報活動	
(IV) 顧問の充実化(◎人材 一人ひとり(個別)の強化	① 利用者定数を擴たず	(1) 30人定員を擴たず (2) 施設見学及び体験入居利用の推進 (3) ケアハウス（えがひで）の広報活動	通年	[1] 施設見学や体験入居の利用の受け入れを通して、積極的な入居につなげる。 [2] 家族や事業所等からの問い合わせに対し、施設利用に繋がるように対応する。 [3] HP等での空床情報の発信、市内事業所向けの見学会など	
		(1) 利用者定数を擴たず	通年	[1] PCでの情報管理（スキャンによるデータ保管理、書類管理の効率化） [2] 各スタッフが資格を持ち、協力しながら業務を進める。	
	② 業務の見直しと省資源化	(1) ペーパーレスへの取り組み (2) 業務の効率化	逐年	[1] 自分の役割を高めし、スキルアップやプロア内での漫遊に努める	
	③ 中間管理層の育成	(1) 中間管理層の把握と実績			

7. 管財課

(基本目標)

前年度新館及び本館の空調設備更新工事が完了し、ここ数ヶ年で計画実施されてきました給水管及び設備の改修、LED照明への交換、新館ボイラーエネルギー削減目的に導入しましたエコキュート機器の設置が終了し、一通りライフルの安定供給が整備されました。今後も各設備のメンテナンスを怠りなく定期的に実施し、ご利用者が安心して快適に過ごして頂けるよう管理致します。防災及び交通事故防止対策は各対応マニュアルを基にBCP計画を活用しながら、災害時落ち着いて的確な行動が出来る様計画致します。

(I) ライフラインの継続的な点検と実施

(II) 防災・防火対策

(III) 交通事故防止と車両の整備

重点目標	具体的目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画								
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
①	空調設備の機械的な保守点検の実施	(1) フロン漏出抑制法で定められた法定点検の実施 (2) 室内熱フィルターの清掃 (3) 故障時の運転確認と修理	10月 5月 通年	フィルター清掃 夏季設定温度26℃維持	夏季設定温度7.5kw以上の機器 フィルター清掃	冬季設定温度23℃前後						
②	エコキュートによる燃費削減	(1) 外気温に対応し、ボイラーリセット温度を調整 (2) 定期的なタンク内の各部温度のチェックと機能の確認状況の確認	通年	冬行一般温度50℃~60℃で調整								
③	水道及びガス供給設備の点検	(1) 受水槽内、水量の監視と供給ポンプ等の点検 (2) 着水していないか毎月の使用料の確認など外部での水槽や床の異常がないかの監視。受水槽の貯水 (3) ガス器具及び配管等にガス漏れがないか確認 (4) ガス警報器の定期的な点検（ガス会社にて）	通年									
④	ライフルの機械的な保守点検と実施	(1) 小規模で簡易的な検査・検査は施設スタッフで要検査的に行う。 (2) 工事の発注及び高額な物品の購入は2社以上複数の業者に依頼し、着力経費削減を図る。 (3) 建物の安全チェックは年一回の定期報告書での調査、提出を基本に、状況変化時等）に応じて外部、室内の巡査、点検を行う。	通年 通年 8月									

※年数を考慮し、新規外装改修の検討時期に入り、検査・見張を実施

社会福祉法人敬和会計画書

		2018年度事業計画書									
		2018年度事業計画書									
①	地震災害の備えと対策	(1) 地震対応マニュアルを基に発生直後の対応及び地震災害事業継続計画（BCP）を活用、地震発生後を想定した訓練を実施し、施設が的確に対応できるようになります。 (2) 定期的に緊急情報確認メール（訓練用）を全職員に発信し、音事の時に速やかに連絡、対応が出来るよう訓練します。 (3) 販売用備蓄用品及び備品のチェックは定期的に実行し、賞味期限切れの食品の入れ替え補充を行う。	毎年								防災訓練
②	火災予防と対策	(1) 消防計画及び火災予防マニュアルを基に年2回の消防訓練を行なう。 (2) 消防設備の点検は委託業者にて年2回を行い、監査報告等に不具合がないよう管理する。	毎年	4月 10月	消防訓練	設備点検					
③	交通事故防止対策の推進	(1) 交通事故予防に合わせ、スローガン及び安全運転推進事例を掲示、各職員が安全運転の意識向上を図る。 (2) 交通事故の特生時は事故の状況を迅速に把握し、人身事故の場合は人命救助を優先とし、保険会社七番に連絡をとりながら、対応する。	毎年	4月 7月 9月 12月	交通安全運動	交通安全運動					交通安全運動
(II) 仮説・仮説実験		(1) 交通事故防止対策の推進	毎年								
(III) 敬和静修院と共同の連携		(2) 施設面の整備	毎年								
<p>定期的に緊急情報確認メールの送信受信訓練の実施</p> <p>施設として毎日～毎晩の水火警報機を確認。報警警笛にて注意管理</p> <p>車検切れ率面のないよう、生産し管理する。</p> <p>施設であることを自覚して、車の手入れを怠りなく交通マナーを守って運行します。</p>											

8. 総務課

(基本目標)

団塊世代の高齢化（2025年問題）など今後多様化するニーズへの対応、不足する介護人材の確保など、刻々と変化している高齢者福祉に課題に対して、この先の未来に求められる福祉施設の在り方、魅力的な職場の在り方を見据えた非常に大きな変革への準備の年度になると考えます。

より良い職場があつて初めて初めてより良い人材が集まり、そして、より良質なケアに繋がるものと考え、介護職の求人活動はもとより、「職員の定着」に取り組むことで、これからの中核を担う介護職の質の向上が図れるよう取り組んでまいります。

社会福祉法人の使命は、「地域における安心の拠点としての公益的役割を果たし、ご利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むこと」がで、きるよう支援すること、及び地域で「生きることに困難」を抱えている人々を支援すること」であると考える。地域におけるセーフティネットの拠点として地域包括ケアシステム構築の観点から、改めて特別養護老人ホームの果たすべき機能と役割を明確にしていかなければならない。

重点目標	具体的目標	指標・成果	到達時期	具体的行動計画								
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
① 利用者の尊重	① 共学・共歩の姿勢を大切に ② 介護職員へのサポート ③ 施設が想いの通に	(1) 共学・共歩の姿勢を大切に (2) 介護職員へのサポート (3) 施設が想いの通に	満年									
② 要の高い自立支援	① 介護職員の職子に対する ② プログラム内容の充実 ③ 外出機会の提供	(1) 介護職員の職子に対する (2) プログラム内容の充実 (3) 外出機会の提供	満年									
③ 家族との連携	① 接遇マナーを大切に ② 家族との対話を重視 ③ 安心・満足感を保障	(1) 接遇マナーを大切に (2) 家族との対話を重視 (3) 安心・満足感を保障	満年									

(イ) 利用者サービスの充実

社会福祉法人敬和会
2019年度事業計画書

① 地域共生社会を目指したサービス	(1) 球野地区包括との協働 (2) 地域課題の抽出 (3) 徹查りかられごとに	翌年	(1) 地域共生社会の実現に向けて、能力体制を整備。 (2) 主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制作りへのサポート。 (3) 利用者支援事業に「丸ごと」受け止められる場を構築。
	(1) 中学校熱温水暖事業の定期化 (2) 高校生インターンシップ (3) 介護施設・被服実習・看護実習の受け入れ	9月～10月 8月	(1) 初回中学校熱温水暖 (2) インターンシップ (3) 外部評面と将来採用へと繋ぐ広報戦略。
		翌年	(1) 姫城川中学校・中学校の就職指導。施設への理解を深める機会を提供。 (2) 施設が持っているあらゆる社会資源を活用し、地域に貢献力を認める。
② 社会貢献への取組	(1) 地域団体の拡大、 (2) 社会資源の活用	通年	(1) 施設内研修により、園々職員のスキルアップを図る。(年3回) (2) できる限りの外部研修の機会を提供し、報告と内部研修の充実。 (3) 加算の獲得
	(1) 施設内研修の充実 (2) 外部研修の参加 (3) 加算の獲得	通年	(1) 日常業務上のQJTの見直しと実践 (2) 日常業務上のQJTの見直しと実践 (3) 4回でも相談できる能動性づくり(1ヵ月後・3ヵ月後・6ヵ月後・1年後)他必要に応じて
	(1) 研修の充実 (2) 研修の充実	翌年	(1) 初任者研修受講 (2) 實地研修のための研修会の提供→受修→介護福祉士資格取得
③ 人材定着のための取り組みとチーム力の育成	(1) 連携し合える同僚や目標とする先輩職員との肩負交換 (2) 部署単位でのQJTの導入 (3) 先人事務局との面談 (4) 働きやすい職場環境	翌年	(1) 初任者研修受講 (2) 介護福祉士資格取得支援
	(1) 連絡会議開催の回数とテーマ (2) 連絡会議開催の回数とテーマ(回報式)	通年	
		通年	

(二) 基本理念をもととして実現する取り組み

(三) 職員の資質形成の取り組み(回報式)

社会福祉法人敬和会

2019年度事業計画

① 利用者定数を減らす	[1] 特種接觸率90%以上 ② 建物本の安定化 ③ 営業期間の短縮 ④ 新規利用者の確保	逐年	[1] 入退所委員会、ケアマネ会議、係長会議での対策検討と現状確認。(月1回) (2) 空床統計報告。(自己とに実績共有) (3) 特種の空床期間を短縮するための効果。 (4) 多時間制の運営による新規利用者の獲得。
			[1] ICTの促進による介護職員の負担軽減を図る。 (2) 共有ホールターの活用によるペーパーレス化を推進。 (3) 利用者本位のケアができるシフトの検討。 (4) 実出の多くを占めるランニングコストを如何にして削減するか、実績を策定。
② 業務の見直しと経費削減	[1] 業務の見直しと経費削減 ④ ランニングコストの削減	逐年	[1] マネジメント教育研修・コーチング教育研修への参加。 (2) コーチング教育の取り組み (3) 過した教訓を行な志旅の懇談
			[1] 中間管理職の育成

(注) 施設の現況に随伴する追加

社会福祉法人敬和会
2019年度事業計画書

『メモ』

(

(

平成 31 (2019) 年度 『けいわ荘』年間行事予定表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1月 入社式	水 新天皇即位日	土 国民の休日	月 ICT委員会	木 給食会議	金 金	日	1 火 ICT委員会	木 金	水 水	日 土	水 水	日 土
2月 火 ICT委員会	木 国民の休日	日 憲法記念日	火 行事食	水 木	木 木	火 月	2 水 木	3 不	4 木	5 正月賀	6 正月賀	7 床清掃
3月 水 木	木 金	土 月	火 木	水 木	木 木	火 月	文化の日	月	火 月	月	月	月
4月 木	土	火 みどりの日	木 行事食	金 木	木 日	火 月	5 金	6 土	7 火	ICT委員会	金	火
5月 金	給食会議	日 こどもの日	水 木	木	木 月	火 月	7 土	8 木	9 木	10 木	11 木	12 木
6月 土	火	月 植物休日	木 行事食	金 木	木 行事食	火 木	ICT委員会	金	給食会議	木 木	給食会議	木 木
7月 日	水	木	木 行事食	金 木	木 行事食	火 木	ICT委員会	金	木	木	木	木
8月 月	木	火	木 金	木 月	木 月	火 木	床清掃	8 木	9 水	10 水	11 水	12 木
9月 火	木	木	木 金	木 月	木 月	火 木	床清掃	9 水	10 水	11 木	12 木	13 木
10月 水	木	火	木 金	木 月	木 月	火 木	床清掃	10 木	11 木	12 木	13 木	14 木
11月 木	木	火	木 金	木 月	木 月	火 山の日	水 木	11 木	12 土	13 土	14 土	15 土
12月 金	木	火	木 金	木 月	木 月	火 木	振替休日	12 木	13 木	14 木	15 木	16 木
13月 土	火	木	木 金	木 月	木 月	火 木	振替休日	13 木	14 木	15 木	16 木	17 木
14日 火	水	木	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	15 木	16 木	17 木	18 木	19 木
15月 木	火	水	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	16 木	17 木	18 木	19 木	20 木
16日 火	水	木	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	17 木	18 木	19 木	20 木	21 木
17水	木	火	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	18 木	19 木	20 木	21 木	22 木
18木	火	水	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	19 木	20 木	21 木	22 木	23 木
19金	木	火	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	20 木	21 木	22 木	23 木	24 木
20土	火	水	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	21 木	22 木	23 木	24 木	25 木
21日 火	水	木	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	22 木	23 木	24 木	25 木	26 木
22月 火	水	木	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	23 木	24 木	25 木	26 木	27 木
23火	木	火	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	24 木	25 木	26 木	27 木	28 木
24水	木	火	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	25 木	26 木	27 木	28 木	29 木
25木	火	水	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	26 木	27 木	28 木	29 木	30 木
26金	火	水	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	27 木	28 木	29 木	30 木	31 木
27土	火	水	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	28 木	29 木	30 木	31 木	31 木
28日 昭和の日	水	木	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	29 木	30 木	31 木	31 木	31 木
29月 火	木	火	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	30 木	31 木	31 木	31 木	31 木
30火	木	火	木 金	木 月	木 月	火 父の日	水 木	31 木	31 木	31 木	31 木	31 木

けいわ保育園

基本理念

1. けいわ保育園は、子ども一人ひとりの個性を受け入れ、大切に育てます
2. けいわ保育園は、豊かな保育環境を用意し、遊びのなかで子どもの成長・発達を育みます
3. けいわ保育園は、地域社会との交流を通じて「和」を学び、生きることの「意欲」・「思いやり」を育てます
4. けいわ保育園は、子育て支援・育児支援を行います。

重点取組事項

- (I) 保育内容の質向上
- (II) 職員の資質向上と魅力ある職場づくり
- (III) 保護者支援・地域子育て支援
- (IV) 経営の安定の確保

具体的取組内容及び達成目標

具体的取組内容	達成目標
(I) 保育内容の質向上 (II) 職員の資質向上と 魅力ある職場づくり (III) 保護者支援・地域子育て支援 (IV) 経営の安定の確保	・会議を使った職員間の意見交流 リーダー会議 新人(雇用後3年未満)と中堅保育士との会議(GBR会)
(I) (II)	月1回~2回会合を行い、マニュアルの整備と安全・衛生の課題を話し合う マニュアルの点検と共に理解
(I) (II)	非常時の役割分担の確認と危機管理に対する共通理解を深める。
連續性のある保育 苦情解決 環境設定・事例検討の研修会	・0歳児~6歳児までの発達を踏まえた、連續性のある教育・保育の働きかけを深める。特に以上児の個別の保育活動を全体の計画との整合性を図りながら、遊びを中心とした連續性のあるものとする。 ・花育や遊びの内容の充実を目指す 苦情解決の事例を使った研修会 乳児・幼児クラス共通のテーマを設定し、研修を実施 (テーマ 3つの育みたい資質・能力に向けて) 非常時の対応の検討 エピペンの使用方法の確認

	保育者のリーダー力育成	乳児リーダー・幼児リーダー 分野別リーダー、チーフ、サブチーフ、園長
	厚木市民間保育会 主任保育士会への参加 けいわ保育園・けいわ星の子保育園との職員交流 キャリアアップ研修の参加	他園との情報共有と交流を深め、主任保育士のリーダー力を育成する 職員交流を通じて、保育の質の向上を図る
(III)	信頼関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報提供と説明の徹底 ・重要事項説明の徹底 ・個人情報についての説明の徹底 ・子どもの作品展示 ・写真による成長の記録を保護者向けに展示
	行政機関との連携	特に「気になる子ども」への対応を学校・行政機関と連絡・相談を行う
	子育て支援事業	・子育て支援事業を通して、地域交流、家庭交流を行う
	中高生との交流事業	職業体験の受け入れ
	保護者への連絡体制	メール一斉配信システム一年に連絡も兼ねて3~4回実施
(IV)	経営の安定の確保	ホームページの充実による入園希望者の確保 人材確保に向けたPR
	支出内容の見直し	備品、消耗品等の見直し

行事計画

時期	内 容
4月	進級・新入式・クラス懇談会
5月	内科検診
6月	わくわく会 お店屋さんごっこ・歯科検診・5歳児プラネタリウム
7月	七夕会・5歳児お泊り保育・プール開き・人形劇鑑賞会
8月	
9月	引き渡し訓練・散者の日のつどい・乳児遠足・内科検診
10月	運動会(0, 1歳児はなし) サツマイモ掘り
11月	5歳児演劇鑑賞会・内科検診・消防署見学
12月	クリスマス会・生活発表会

1月	クラス懇談会・お餅つき
2月	節分会
3月	5歳児お別れ遠足・ひな祭り会・お別れ会・進級説明会・卒園式

☆身体測定（身長、頭回り、体重）は毎月測定

☆誕生会：乳児・幼児とも毎月行うが、乳児はクラス内で行う。

☆保護者参観・保護者参加：参観は随時対応　白課により保育参加あり

☆調理保育：保育日課に取り込む（たまねぎむき、午後のおやつ作り）

　全体的な調理保育は年に2回～3回

☆戸外保育：気候のよい時期（5・6・9・10・11月）

☆花育　：年間4回程度　花の生育や色、匂いを楽しむ

☆その他　：中高生交流事業　職業体験受入れ

☆地域交流事業：6月わくわく会（人形劇）に地域の子育て家庭を招待

　離乳食講座　らくらくクッキング

　育児相談事業

☆職員研修・職員会議：年間12回（食育研修1回・救急法講習会1回含む）

　園外研修　経験・配置に応じた研修受講　キャリアアップ研修含む

けいわ星の子保育園

基本理念

1. 家庭的な温かい環境のもとで、一人ひとりをしっかり受け止め情緒の安定した生活ができるように大切に育てます
2. 豊かな保育環境を提供し、夜間保育園ならではの多様な体験を積むなかで、子どもの成長を育みます
3. 異年齢児保育・世代間交流・地域交流などの関わりを通じ、優しい心と生きる力を育みます
4. 地域の子育て支援・育児支援を行います

重点取組事項

- (I) 保育の質の向上
- (II) 職員の人材育成と働きやすい職場
- (III) 保護者支援
- (IV) 地域支援と交流
- (V) 経営の安定を図るため、新事業の検討

具体的取組内容及び達成目標

取組事項	取組内容と達成目標
(I) 保育の質向上	<ul style="list-style-type: none">・保育の振り返りの中で気付いたことを文章化し次の保育への足掛かりをつかみ実践に繋げる・保育実践を園外研修で発表することで、保育を見つめ直し、良さも改善点も改めて感じる
(II) 職員の人材育成と働きやすい職場	<ul style="list-style-type: none">・将来を見越した後継職員の育成・キャリアアップ研修受講と講師が出来る職員。・有給休暇の取りやすい職場環境
(III) 保護者支援	<ul style="list-style-type: none">・子育て困難家庭への支援・保育参観・参加を通じて子どもの成長を伝え、理解を深め、子育てを楽しく感じられるようにする・園行事の中で、保護者同士の交流を図る・休日保育に入れないので悩んでいる保護者がいる

(IV)	地域支援と地域交流	<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援事業を通じて育児の相談 ・一時預かり保育の実施 ・ボランティアの中高生や大学生の受け入れ ・お年寄りとの交流と地域行事への参加 ・幼保小交流会への参加
(V)	経営の安定の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・無駄を省き、経費の節約に努める ・入園児の確保のための宣伝活動 ・保育園としての生き残りを進めていくための事業の検討

行事計画

時期	内 容
4月	入園・進級式、家族交流会
5月	内科検診、戸外給食、消火訓練
6月	救急救命講習会、プラネタリウム、プール遊び
7月	5歳児懇談会、七夕会、お泊り保育、カレーパーティ、納涼祭参加
8月	スイカ割り（えまーぶるとの交流）、3・4歳児懇談会、
9月	引き渡し訓練、内科検診、戸外給食
10月	運動会（10/5） サツマイモ堀遠足 プラネタリウム
11月	炊き出し訓練、内科検診、演劇鑑賞会、防災センター見学、焼き芋会
12月	地域子育て支援事業、クリスマス会、園内研修会、餅つき
1月	こま廻し大会、個人面談、焼き餅
2月	節分会、生活展
3月	ひな祭り会、入園説明会、進級説明会、お別れ遠足、 卒園式

- ☆ 避難訓練・誕生会・身体測定は毎月実施
- ☆ 保育参加や個人面談は申し出があればその都度実施
- ☆ スポチャンは4、5歳児が月2回
- ☆ 花育は5歳児が年8回実施